

# 日本作業療法士協会 海外研修助成制度

## 実績報告書

---

発表演題名：Comparison of online Social Skill Training (SST) and face-to-face (F2F) SST for adults and adolescents with Developmental Disabilities (DD) in Japan.

学会名：18th WFOT CONGRESS

会期：2022年8月28日～8月31日

開催地：フランス：パリ（Web開催）

申請者

氏名：莊司 さやか

所属：森山脳神経センター病院 リハビリテーション科

会員番号：21323

所属士会：東京都

---

### 1. 発表演題の概要

#### 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の出現により、X大学の教育相談室で行っている、クライアント同士のディスカッションをベースにした対面のSSTを行うことが難しくなった。このような状況にもかかわらず、私達は発達障害のある成人と中高生に対して、ディスカッションベースのグループSSTを継続させるため、対面SSTからZoomを使用したオンラインSSTに移行することにした。この報告は、X大学で私がスタッフとして参加しているSSTのプログラムにおいて、対面SSTとオンラインSSTの違いを明らかにすることを目的とする。

#### 【方法】

オンラインSSTと対面SSTの両方を経験したスタッフ（9名：障害科学を学んでいる大学院生5名・臨床心理師2名・作業療法士2名）を対象に質問紙にて回答を求めた。

質問紙はGoogleフォームを使用して作成した。

質問項目は合計23項目、1) SSTの進め方、2) サポートのしやすさ、3) クライアントがどのぐらい会話に参加したか、4) クライアントが獲得したスキル、5) 事前準備についてである。4)の項目は、文献1)を参考に作成した。評価は6段階リッカートスケールによって測定し、評価は「1非常に悪い」から、「6非常に良い」とした。全ての質問項目のうち、19項目はオンラインSSTと対面SSTについてそれぞれ尋ね、4項目はオンラインSSTのみ尋ねた。また、1)、2)、「その他気がついたこと」を自由記述にて回答を求めた。

リッカートスケールの結果は、ウィルコクソン符号順位検定を用いて分析を行った。統計ソフトは、SPSS ver28を用いた。また、自由記述は、それぞれの設問に対する回答の特徴を

まとめた。

#### 【結果】

オンライン SST と対面 SST で比較した結果、スタッフのモデリングはオンラインよりも対面の方が上手かった ( $z=2.12, p<.05$ )。また、クライアントの表情は、対面よりもオンラインの方がわかりにくかった ( $z=2.31, p<.05$ )。さらに、対面よりもオンラインの方が、クライアントは顔つきから相手の感情を読み取ることが難しかった ( $z=2.00, p<.05$ )。しかし、その他の項目に有意な差はみられなかった。自由記述の結果では、オンラインは対面よりも、非言語コミュニケーション情報が少なく、話に入り込むタイミングがわかりにくかった半面、チャットの使用が会話を促進させた。"

## 2. 学会参加と発表の印象

#### 【学会の詳細】

今回、18th WFOT congress にオンラインで参加した。開催地はフランスのパリで 8 月 28 日～31 日の 4 日間に亘って開催され、100 か国以上から 2500 人以上の代表者と、60 か国以上の発表者が参加した。発表のカテゴリーは、「研究」「実践」「教育」「リーダーシップとマネジメント」の 4 カテゴリーあり、演題テーマは、「高齢者」「乳幼児／子供／若者／家族」「革命的なリハビリテーション」「インクルーシブな職場」「コミュニティ開発」「メンタルヘルスとウェルビーイング」「テクノロジー」「リーダーシップ、アドボカシー」「健康増進、公衆衛生および保健サービス」「災害管理」「人権」など、20 テーマに分けられていた。学会は、これらのテーマについて、世界の OT の最新の研究結果の共有と、OT のリーダーシップの発揮を目的に開催された。今回、オンラインでの参加となったが、パソコンを使用して、セッション会場に自由にアクセスすることができた。また、ポスターは、事前にサイトにアップされていたので、会期前に目を通すことができた。さらに、ポスターはタイトルの掲載だけでなく、スライドの 1 枚目が選択画面に表示されるので、学会会場で目に留まったポスターを選んでから詳細を見るという、現地でポスターを見るのと同様の手順で閲覧することができた。

#### 【目標】

英語での演題登録からポスター作成といった参加までの手順と、学会当日のセッションから、様々な国の OT による問題提起と、問題解決のための研究方法や OT の視点を学ぶことを目標に参加した。

#### 【ポスター登録まで】

演題の登録と同時に Biography を作成し登録した。ポスターは、ガイドラインの規定通りに、縦長のスライド 3 枚以内に 2 段組で記載し、規定通り最大 3 色までを使用して作成した。

#### 【演題の詳細】

テクノロジーに関する演題も多く、高齢者に対するスマホの使用と参加に関する研究や、

遠隔医療へのアクセシビリティに関する研究などがみられた。メールや SNS などのデジタルコミュニケーションへのアクセスは自己決定と社会参加に関連しているため、認知機能の障害のある人がデジタルコミュニケーションにアクセスしやすくすることの必要性を述べる発表 2) や、高齢者が遠隔医療にアクセスしやすくなるプログラムを実施し、介入の効果があったという発表 3) もあった。

また、遠隔リハビリテーションサービスの可能性についての演題も多くみられた。写真とビデオを使用した自宅環境の評価と、家庭訪問での評価を比較した際に、CVA の転倒リスク軽減に同じ効果が得られたという発表 4) があり、少ない OT 資源を有効に使うための研究もみられた。VR を使用した発表には、MCI の早期発見のための評価や、重度知的障害のある人に対して視線の動きを使用したビデオゲーム活動などの研究発表があった。

また、Covid-19 による生活の変化に関する演題もみられ、Covid-19 陽性者となった高齢者の ADL の低下に関する研究 5) や、Covid-19 で外出機会が減った高齢者の QOL をどう高めるかなどの発表、Covid-19 でテレワークが増えたことから、パソコン操作の姿勢など作業環境について言及している演題などもあった。

#### 【所感】

演題登録の際に作成した **Biography** は、自分の専門性が何かを振り返り、言語化する機会を提供してくれた。臨床業務に追われていると、様々な対象の患者さんに対し、対象者にあったアプローチ法を選択し介入することが多いため、自分の専門性について考える機会はそれほど多くないと思われる。そのため、**Biography** の作成を通し、改めて自分の専門分野について考えることで、今まで自分が学んできたことを確認すると同時に、OT の専門性について考えることができた。

また、演題のテーマが障害種別ではないことが印象的だった。日本では、「脳血管疾患」「高次脳機能障害」など疾患別に演題のテーマを選択するが、WFOT では、唯一年齢で「高齢者」を分けていたが、そのほかは、障害でテーマを分けていなかった。演題を登録する際、テーマの選択に迷うことはあったが、学会当日のテーマ別のセッションでは、特定の疾患や、障害のある・ないに関わらず、OT がどのようなことに問題意識をもって、研究に取り組んでいるのかを聞くことができた。

学会当日の口述発表では、国際的な人道支援というワールドワイドな内容の発表もあったが、OT の視点が国際問題の解決につながっていることが興味深かった。また、障害のある方に対してだけではなく、予防の観点から研究を行うなど、様々な視点からの発表があった。OT の視野の広さを実感するとともに、自分の職場での問題点と問題解決につながるように視点を絞ることも、専門性を高めるためには必要だと感じた。

最後に、日本の学会はスーツで参加する人が多い印象だが、WFOT の発表者はカラフルな服を着ている人が多かった。発表時の簡単な自己紹介や質問者への受け答えの際に、笑顔で話している人が多いのが印象的だった。スライドや言葉だけでなく、非言語でのコミュニケーションを使って発表するのが上手いと感じたので、口述発表する機会があれば取り入

れてみたいと思った。"

### 3. 文献

- 1) 藤本学, 大坊郁夫: コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. パーソナリティ研究, 15(3): 347-361, 2007.
- 2) Buchholz M, Ferm U, Holmgren K: Let's stay in touch! How do we enable access to digital communication for people with communicative and cognitive disabilities. 18thWFOTcongress. Paris, 2022-08-28/31.
- 3) Taylor S J, Little L: Promoting telehealth usage among older adults: An age-friendly training program. 18thWFOTcongress. Paris, 2022-08-28/31.
- 4) Ainuddin H A A, Romli M H, Hamid T A, Salim M F S F, Mackenzie L : Test-Retest Reliability of Assessing Falls Risk Home Hazards for Stroke using Technologies over Home Visit. 18thWFOTcongress. Paris, 2022-08-28/31.
- 5) Bae S, Nam S, Hong I : Association between COVID-19 and the Performance of Activities of Daily Living in Older Adults. 18thWFOTcongress. Paris, 2022-08-28/31.

### 4. 論文掲載情報 (学術雑誌に投稿し、論文掲載された場合に記載)